共同運営部門：がん治療センター

＜スタッフ紹介＞

スタッフの集合写真、所属部署および氏名を示す。

	部　署	氏　名
1	副病院長 兼 診療支援局長 兼 消化器外科主任部長 兼 がん治療センター長 兼 がん相談支援センター長(がん治療検討委員会 委員長)	種村 匡弘
2	泌尿器科部長 (がん治療検討委員会 副委員長)	射場 昭典
3	肺腫瘍内科部長	森山 あづさ
4	血液内科部長 兼 輸血・細胞治療センター長	釜江 剛
5	消化器内科主任部長	大西 亨
6	消化器内科部長	幡丸 景一
7	消化器外科部長	三宅 正和
8	乳腺・内分泌外科部長	森島 宏隆
9	脳神経外科部長	出原 誠
10	呼吸器外科部長 兼 呼吸器センター長	土井 貴司
11	産婦人科副部長	古谷 毅一郎
12	耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長 兼 頭頸部センター長	硲田 猛真
13	口腔外科部長	藤田 祐生
14	病理診断科部長	今北 正美
15	外来看護師長	奥出 恵子
16	外来 患者サポートセンター看護師 兼 急性期ケア推進室	杉野 幸恵
17	8階海側病棟副看護師長 兼 急性期ケア推進室	樋口 紀美子
18	薬剤部門主幹	中川 直樹
19	薬剤部門主査	西井 拓人
20	検査・栄養部門栄養管理主査	林 美幸
21	放射線部門長	中前 光弘
22	臨床工学・技術部門長	荒川 昌洋
23	リハビリテーション部門主査	栗山 泰典
24	ドクターサポートセンター主任	三浦 薫
25	医療マネジメント課診療情報管理係長 兼 算定係主査 兼 危機管理室主査	田中 貴士
26	がん相談支援センター	下村 恭子
27	医療マネジメント課診療情報管理係	坂田 祐美子

＜特色と概要＞

がん治療センターは消化器外科、消化器内科、放射線科、放射線治療科、血液内科、呼吸器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、口腔外科、泌尿器科、産婦人科、がん緩和医療チーム、診療支援局(薬剤部門、リハビリテーション部門、検査・栄養部門)、看護局(がん性疼痛看護認定看護師)、事務局(医療マネジメント課)など多診療科・多職種から選出されたメンバーで構成され、「**がん治療**」に特化した共同運営部門である(下図参照)。当センターでは様々な臓器のがん診療の現状を公開し、「**大阪府がん診療拠点病院**」として外科手術、放射線治療、化学療法を組み合わせたがん集学的治療の質の向上に努めている。

具体的な取り組みの一つとして、がん患者に最新・最適ながん治療を提供することを目的として『**キャンサーボード**』を毎月開催している(下表に担当診療科・参加人数の一覧を示す)。本ボードは治療に難渋している症例や、同時に複数のがんが見つかった症例、合併症があり標準的治療を提供することが困難と考えられる症例など多岐にわたるがん症例について、さまざまな治療法(手術、内視鏡治療、抗がん剤治療、放射線治療など)を多角的に検討する会議であり、診療科の垣根を超えて各臓器の専門医師、看護師を含めたコメディカルスタッフなど多職種専門家が一堂に会した検討会である。それぞれの知識を持ちより意見交換することで、がん患者の病態に応じた最善の治療の提供を目指している。

また、がんに伴う疼痛、倦怠感、食欲低下、吐き気、息苦しさなどを含め身体的・精神的苦痛を和らげることを目的として『**がん緩和ケアチーム**』を設置している。チーム活動の一つとして在宅医療への移行などに伴う地域医療との連携、がん患者・家族に対する相談業務も担っている。特に、がんと診断されたときから本チームが介入することにより予後が改善するとのデータをもとに、緩和ケアチームの早期介入を心がけている(具体的な活動内容、件数については緩和ケアチームの年報報告を参照ください)。

がん治療検討委員会主導 2024年度 キャンサーボード開催一覧		
開催日	担当診療科	参加人数
4月18日	消化器外科	27名
5月9日	肺腫瘍内科	25名
6月20日	乳腺・内分泌外科	20名
7月11日	血液内科	21名
9月12日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	17名
10月17日	口腔外科	19名
11月14日	脳神経外科	16名
1月9日	消化器内科	17名
2月20日	泌尿器科	18名
3月13日	呼吸器外科	18名
3月19日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	16名

また、がん緩和ケア外来も開設し、がん治療の初期段階から治療でお悩みの患者の対応も行っている。2016年度からがん性疼痛看護認定看護師さらに、緩和ケア認定看護師が連日、がん患者の訴えや疑問点等に相談・対応している。がん認定看護師は医師の病状説明や治療方針の説明に立ち会い、患者の治療への理解を深めるようサポートしている。

術前説明風景

5大がん（胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん）を含む全国がん登録事業および院内がん登録や各種情報の収集・提供（がんサロン＝らふの会を通して患者、ご家族の交流を図る）なども当センターの活動範囲となっている。

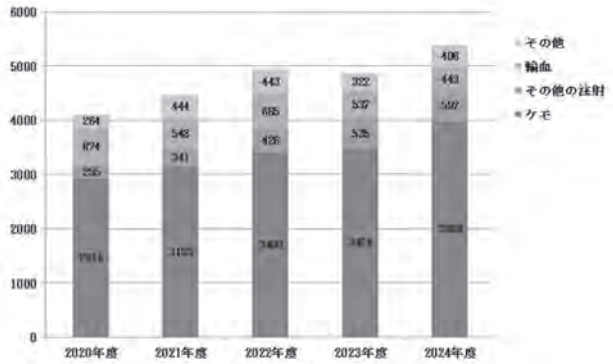
近年注目されているがん免疫療法、特に免疫チェックポイント阻害剤を応用したレジメンが多く導入されている。それに伴い免疫関連有害事象(irAE)の発症が増加しており、迅速かつ的確な対応が求められる切迫したirAE症例も散見される。当センターでは『**irAE対策チーム**』をいち早く編成し、主治医の専門領域外の免疫関連有害事象に対し臓器横断的に対応できる体制を構築している。

当院では多くのがん手術を実施している。近年、日本人の急速な高齢化に伴い、がん患者の高齢化も一層加速している現状がある。この極端な高齢化に対応すべく、看護師、リハビリテーション技師、管理栄養士など多職種が連携介入し、がん手術の術前・術後の早期よりリハビリテーション、口腔ケア、栄養指導など介入し術後肺炎など周術期合併症回避、早期退院を可能にする工夫を行っている。周術期口腔ケアの一環として、当院に隣接する薬局には口腔ケア専用の洗浄液や洗浄用ゲルの販売を新たに開始し、患者自身でも口腔ケアを進められるよう整備している。また、がん手術の術後および抗がん剤投与などに伴う食欲不振などに対し管理栄養士が対面で栄養指導を積極的に行っている。当院のがん診療は医師、看護師だけでなく薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション技師など多職種連携によるチーム医療でがん患者を中心とした360度がん診療を展開している。今後は院内整備をさらに進め『**国指定がん診療連携拠点病院**』の取得を目標とする。

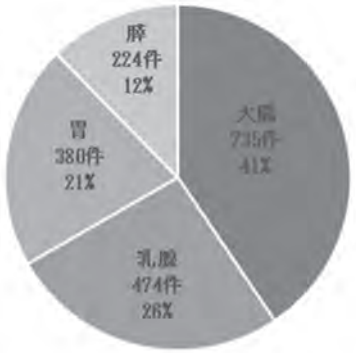
＜実績＞

化学療法処方実枚数
（2020年度-2024年度）

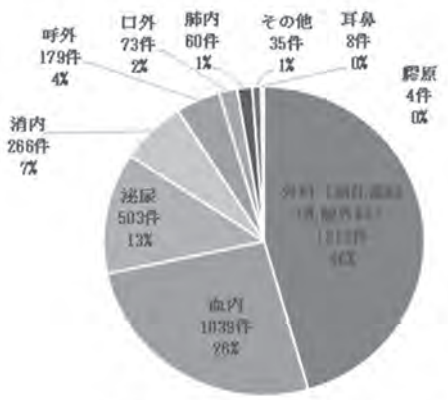
外来・入院での抗がん剤治療の実施状況などの診療実績を下記に示す。



外来化学療法室　業務内容別件数
（2020年度-2024年度）



2024年度　外来化学療法　外科臓器別件数



2024年度　外来化学療法　診療科別件数

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

2023年2月よりキャンサーボードを毎月開催するように変更した。さらに2023年7月からは当院および泉佐野泉南医師会との共催で『南大阪がん治療フォーラム』を開催し、2024年7月にも第2回がんフォーラムを開催した。地域の医師、薬剤師との交流を深め、がん治療についての最新の知見を提供する機会を設けていく。

がん治療の質向上を目指すべく患者本人、ご家族からの貴重なご意見を積極的に吸い上げ、患者本位のがん治療体制構築に努力する所存である。